



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報  
**大森 海苔のふるさと館** ニュース74号

**令和2年度  
催し物**

毎月、さまざまな催し物を予定しています。夏休みは子供向けの体験学習が充実しています。

海苔に関するものや親子で楽しめる催し物などご用意して、皆様のご参加をお待ちしております。



開催日		催し物	対象	受付開始日
月	日・曜			
4	4日 (土)	海苔つけ体験 <b>中止</b>	だれでも	中止
	18日 (土)	緑のカーテンを編もう <b>中止</b>	小5以上	中止
5	31日 (日)	海苔でお絵かき「海藻おしばづくり」	だれでも	4月21日 (火)
6	21日 (日)	あみあみペットボトルホルダーづくり	小5以上	5月21日 (木)
7	23日 (木祝)	ペーパークラフトで海苔とり舟をつくろう	小1以上※	7月11日 (土)
	26日 (日)	浜辺の生き物探検隊	小3以上	
	29日 (水)	自然素材でフォトフレームづくり	小3以上	
8	2日 (日)	自由研究で海苔を調べよう	小3以上	
	10日 (月祝)	フジツボを観察しよう	小3以上	
	15日 (土)	タペストリーをつくろう	小3以上	
	25日 (火)	貝がら工作	小学生以下	
9	30日 (日)	浜辺の生き物探検隊	小3以上	
	13日 (日)	海苔簀づくり	小3以上	8月21日 (金)
10	22日 (火祝)	映像上映「海の畑」	だれでも	当日先着
	11日 (日)	海苔簀づくり	小3以上	8月21日 (金)
	24日 (土)	浅草海苔のふるさと大森を歩く	小5以上	9月21日 (月祝)
11	23日 (月祝)	海苔つけ体験	だれでも	11月11日 (水)
	29日 (日)	海苔つけ体験	だれでも	
12	6日 (日)	大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験	小3以上	11月21日 (土)
	19日 (土)	海苔つけ体験	だれでも	11月11日 (水)
1	10日 (日)	海苔つけ体験	だれでも	12月11日 (金)
	24日 (日)	海苔つけ体験	だれでも	
2	6日 (土)	大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験	小3以上	11月21日 (土)
	23日 (火祝)	海苔つけ体験	だれでも	12月11日 (金)
3	7日 (日)	海苔つけ体験	だれでも	2月21日 (日)
	20日 (土祝)	海苔つけ体験	だれでも	

※ 小学生は保護者同伴。

催し物の詳細は、区報およびホームページでお知らせしています。

申込み：区報掲載日の午前9時より電話にて申込受付。土日祝日も受付けています。

**申込・問合せ先：大森 海苔のふるさと館 電話：03-5471-0333**

**※催し物は中止または変更となる場合があります。**





# 年間の催し物

主な催し物をご紹介します。

## ■海苔でお絵かき「海藻おしばづくり」(10:00～、14:00～)

ノリや近くの浜辺の海藻で絵を描いて、海藻おしばに仕上げます。



## ■あみあみペットボトルホルダーづくり(13:00～16:00)

海苔網の編み方を応用して、ペットボトルを入れるネット状のホルダーを作ります。

## ■海苔簀(のりす)づくり(13:30～16:00)

ヨシを使って海苔つけに使う海苔簀を作ります。

## ■浅草海苔のふるさと大森を歩く(13:00～)

浅草海苔の一大生産地だった大森の海岸エリアを巡り、海苔の史跡などを見学します。

## ■海苔つけ体験(10:00～12:00)

生海苔から乾海苔を作る体験です。

## ■大森の伝統を学ぶ海苔つけ体験(10:00～)

かつての大森伝統の海苔づくりの歴史や方法について解説を聞き、元生産者の手わざを体験します。海苔を学びたい方や好奇心旺盛な大人向きです。

## <夏休み子供向け体験学習会>

### ■ペーパークラフトで海苔とり舟をつくろう(13:00～16:00)

ベカブネのペーパークラフトを作ります。

### ■自然素材でフォトフレームづくり(13:00～15:30)

植物のヨシを編んで、貝がらで飾りつけたフォトフレームを作ります。



### ■浜辺の生き物探検隊(9:30～12:30)

浜辺の生き物の観察をして身近な海の環境を学びます。

### ■自由研究で海苔を調べよう(13:00～16:00)

海苔づくりの歴史のお話や道具体験、展示見学、質問タイムなど、海苔について学びます。

### ■フジツボを観察しよう(13:00～15:30)

海に沈めた板に付いたフジツボを調べます。動きを観察したり、違いを調べたり、実験や観察をします。

### ■タペストリーをつくろう(13:30～15:30)

海の紐の結び方を使ってタペストリーを編みます。



### ■貝がら工作(9:30～、13:30～)

自然の貝がらを使って工作をします。

## ミニ・イベント



家族連れやお友だち同士でお気軽にご参加いただけます。

主催:NPO法人 海苔のふるさと会

### ■ひまわり・プロジェクト

種まきの巻:5月2日(土)、3日(日祝)

※いずれも13:30～14:30(当日先着)

水やりの巻:5～7月の毎日

種とりの巻:9月19日(土)～21日(月祝)

※いずれも9:00～17:00で自由にできます

### ■季節飾りと工作遊び

カブトづくり:中止

ハーブのてるてる坊主づくり:6月13日(土)

七夕飾りづくり:6月27日(土)

ハーブのサシェづくり:9月21日(月祝)

貝のおひなさまづくり:2月27日(土)

※いずれも13:30～15:30で自由にできます



### ■観察会「浜辺の小さな生き物たち」

6月7日(日)、10月31日(土) 13:30～15:30

### ■お月見コンサート

10月4日(日) 17:30～19:00

※小学生以上、要事前申し込み(9月より募集開始)

### ■天空ガーデンの手入れ

手入れ:4、6、7、9、10、2、3月の第1水曜日

植え替え:5、11月

### ■大人の紙芝居

毎月第2木曜日 13:30～14:30

(ただし、7月は第1木曜日)

### ■ほかにも!

GW:のりのり☆クイズ

夏休み:のり検定(海苔のワークシート)

毎月第3日曜日:親子で昔遊び



※ 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止または変更となる場合があります。最新情報をご確認くださいませよう、お願い申し上げます。

## 海苔のふるさと会 会員募集中!!

当館の活動を支援して下さる会員を募集中。会員には年6回、このニュースをお届けします。詳細は電話またはホームページにて。

### 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」74号

令和2年4月1日発行  
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区  
平和の森公園2番2号  
TEL 03-5471-0333  
FAX 03-5471-0347



# 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報 大森 海苔のふるさと館 ニュース75号

企画展

## のりす 一枚の海苔簀ができるまで

—海苔づくりを支えた道具たち—

令和2年8月18日(火)～11月15日(日)

企画展の内容から、かつての海苔簀づくりをご紹介します。展示では、道具や実物、現在ふるさと館で行っている再現活動の様子などもご覧いただけます。

### 海苔簀とは

海苔簀は、生海苔を付けて乾燥させるための簀のことで、材料のヨシの入手から海苔簀編みまで各家庭で行いました。作業は夏から始まり、海苔の収穫が始まる晩秋まで完成させるため、家族総出で夜なべして作ったものでした。



### 1. ヨシ刈り

7月20日過ぎになると、海苔簀の材料のヨシ刈りが始まります。

昭和30年ごろまでは、多摩川、鶴見川、小松川、江戸川などに出かけて刈りました。その場でヨシの葉をこき落とし、根元を切りつけて持ち帰りました。風がヨシにさえぎられてうだるような暑さでした。しかし、これらは雑ヨシといい、あまり質が良くありませんでした。



8月過ぎには、品質のいい江戸川河口の葛西ヨシが入荷しました。高価ですが、海苔の仕上がりがいいので、どこの家も半分ぐらいは葛西ヨシを購入していました。大船という積載量の大きい船で共同で行き、刈り取ったヨシを載せて戻りました。

### 2. こもすぐり

葛西ヨシは刈り取ったままの長い状態で家に持ち帰ります。長さを大別するために、最初に「こもすぐり」という作業をします。一束をタルに入れて穂先をつかんで振るって上に引き抜くと、同じ長さにそろいます。それを繰り返します。



### 3. ヨシ干し

束ねたヨシは庭先に干しました。乾きやすいように、束を扇状に開き、葉を上の方にして互い違いにしました。午後に裏返し、夕方に取り込んで納屋にしまいました。ヨシの芯が乾くまで、約1週間から10日ぐら



い干します。夏休みの子どもたちも手伝わされ、炎天下の中、汗だくで作業しました。

7～8月は夕立が襲う時期でもあり、外出できない日々が続きました。

### 4. 葉落とし、穂先をそろえる、長さを切る、太さの選別

乾いたヨシは、穂先の2～3枚を残して葉を落とします。次に、ヨシを1本ずつ取り、穂先をそろえていきます。ひと握りになったら束ねて、穂先の葉を1～2センチほど残してオシギリで切り、根元の方を切り落とし約40センチに仕上げます。



最後に、ヨシの太さを太、中、細の3種類により分けました。太さをそろえることで平らに仕上がりに、海苔付けした時に質のいい海苔に仕上がります。

### 5. 割竹と端編み

海苔簀の端には割竹を使いました。青竹をヒビ鉋などで割り、さらに割いて仕上げます。

海苔簀を干す際にくいや目ぐしで止める部分には、端編みと呼ばれるほかの素材を4～5本編み込みます。台干しを使っていたころはヨシの根元の硬い部分を使いました。昭和20年代に桙干しに替わると、より硬い竹を使うようになりました。

### 6. 海苔簀編み

葉落としや簀編みは、主に女性や年配者の仕事でした。大規模な海苔生産者の家では、資材屋や海苔簀屋などから一部またはほとんどを購入することもありました。

若衆は夜なべで編む枚数が決められるものの、座って作業するのが苦痛だったそうです。1日で約40～50枚編みました。



昭和30年代になると機械編みが登場しました。機械は1日100枚ぐらい編めたので作業が楽になりました。

編み終わった海苔簀は、簀の耳切りをします。切ったら100枚ずつの束にして納屋に保管しておきました。



(五十嵐)

# オンラインでの情報発信の充実

ふるさと館では、これまでもホームページやFacebook、Twitterなどを使って、イベント情報や日々の活動の紹介などの情報発信を行ってきました。加えてご自宅でもふるさと館を楽しんでもらえるよう、新たなコンテンツも作り、発信しています。

## ◆ホームページ

新型コロナウイルスをきっかけに、全国のミュージアムが連携し、「おうちミュージアム」を始めました。ふるさと館もその活動に参加しています。のりのり君のぬりえやクイズなどを載せています。ご自宅でダウンロードして、楽しんでみてください。



## ◆YouTube(動画)

新たに始めたのが、YouTubeを使った動画配信です。全員が初めての動画編集で苦戦していますが、

新型コロナウイルスの感染拡大防止のための臨時休館をきっかけに、更に充実した情報発信をご紹介します。

小学生の学習向けや自宅でできる体験の紹介など、少しずつ増やしていく予定です。

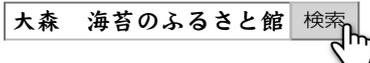


また、「City Ota Channel/大田区チャンネル」でも、「おうち時間を楽しもう」というテーマで展示室を紹介しています。



## ◆Facebook、Twitter

FacebookとTwitterでは、日々の出来事やイベント申し込みの最新情報などを発信しています。人気の記事は、元海苔生産者の作業の動画、昔の写真、休館日の裏方作業などです。ぜひ、フォロー、いいね、よろしくお願います。(五十嵐)



## 新職員のごあいさつ

森 佑貴

小さい頃から自然や生き物が大好きな少年でした。趣味(ダイビング、写真撮影、旅行etc...)を通して自然に触れてきました。大学では、千葉県浦安市の環境・産業・まちづくりの変遷について研究し、卒業後は環境調査や環境データの解析に従事しておりました。

大森や海苔づくりについて、まだまだ勉強しなければならないことが山積みではございますが、多くの方にお伝えできるよう精進して参ります。

豊田 暁

大学では日本古代史、大学院では川下りの船頭について研究をしていました。

海苔のことについてはこちらに来てから勉強をしています。まだまだ分からないところばかりですが、少しでも大森の海苔の歴史や道具の魅力について、ふるさと館に訪れる人たちにお伝えしたいと思っています。

ご指導ご鞭撻の程、  
よろしくお願い申し上げます!!



牧野 望実

学生時代は、江戸時代後期の譜代大名の動向について研究しておりました。また、大学の調査で各地の歴史に触れる機会が多かったため、地域史にも関心があります。

海苔づくりをはじめとした大田区大森の素晴らしい歴史・伝統を次代に継承する一助となるべく精進してまいります。

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」75号

令和2年8月1日発行  
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区  
平和の森公園2番2号  
TEL 03-5471-0333  
FAX 03-5471-0347

海苔のふるさと会  
会員募集中!!

当館の活動を支援して下さる会員を募集中。会員には年6回、このニュースをお届けします。詳細は電話またはホームページにて。



# 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報 大森 海苔のふるさと館 ニュース76号

## てく海苔と浜辺のまち歩きガイド 所要時間約90分 コース⑤

館の周辺をお散歩してみませんか。海苔や浜辺の面影が分かる場所を数回に分けて紹介します。



今回は、旧呑川周辺のコースです。舟に乗った気分で旧呑川緑地を歩いたり、海苔養殖の伝承が伝わる寺社を巡ったりしてみてください。

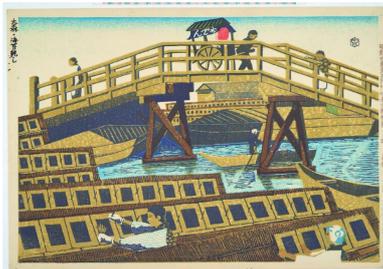
海岸線から海を眺めると、埋め立て地や高速道路、モノレールなどが目に飛び込んできます。いずれも、大森の海苔養殖が終わった後に建設されました。街の移り変わりを感じながら、歩いてみてください。

### ①旧呑川緑地

呑川は、洪水対策として昭和10年（1935）に、夫婦橋下流を藤兵衛掘と繋げる工事をした。旧呑川は海苔船の河岸として利用された。冬は海苔乾し場、春から秋は資材置き場や作業場としても使われた。海苔養殖が終わった後に埋め立てられ、昭和57年（1982）に緑地が整備されて人々の憩いの場所となっている。

### ②潮見橋

船が通れるように真ん中が高くなった橋がかけられていた。



「大森・海苔乾し」 昭和大東京百図絵版画 昭和12年 小泉癸巳男

### ③信用組合と信用金庫

昭和37年（1962）の漁業権放棄後に、補償金の一部を出資する形で昭和40年（1965）に東京沿海信用組合が創立された。後に東京富士信用組合に改称し、平成14年（2002）に現在の共立信用組合に事業譲渡された。また、大正8年（1919）、主に海苔生産者に対する経済支援を目的に東京府水産信用購買販売生産組合が発足し、改称を経て、平成14年に現在のさわやか信用金庫になった。

### ④三輪蔵島神社

地元では弁天神社の名で親しまれ、境内には昭和16年（1941）に川端海苔漁業者が奉納した灯ろうがある。

毎年2月11日には水神祭を行っており、今も海苔漁業関係者が参詣に訪れることもある。

神社には源義経の海苔起源伝説が伝わる。伝説によると治承4年（1180）に源義経が郎党を率いて多摩川を渡る際、強風に見舞われ大森沖を漂流した。その時、舟から見える小高い神社に祈念したところ風が収まった。その社が蔵島社だった。その加護に感謝して社殿を修理し、浜辺に注連竹を建てた。この注連竹に付いたのが海苔だった。それ以来、大森の海苔の守護神として信仰されている。



⑤密乗院

鎌倉時代に創建。板海苔を考案したと伝わる初代・野口六郎左衛門と、大森の御膳海苔の漁場を守ろうと尽力するも中追放の処罰を受けた北大森村百姓惣代の野口六郎左衛門の菩提寺でもある。平成22年（2000）、住職と元海苔生産者らで『海苔のこゝ大森のこゝ』を発行した。（ふるさと館で販売中）

⑥北村神社

堀之内三輪神社の末社。大森の海苔ヒビ建場改めの危機に、<sup>いわざのがみ</sup>継続の決断を下した北村石見守を祀り、元海苔漁業者に信仰されてきた。しかし、北村石見守は実在しないことから、⑤で触れた北大森村百姓惣代の野口六郎左衛門を名を隠して祀ったのではないかと考えられている。

⑦森ヶ崎鉦泉跡（大森寺内）

森ヶ崎は、かつてヨシ原が茂る土地だった。明治10年ごろに地元の豪家が洲を埋め立てて土地が開かれていった。明治32年（1899）に鉦泉が発見され、鉦泉旅館や料理店、鉦泉病院などが開設されて、森ヶ崎鉦泉街として栄えた。馬込文士村の代表格の尾崎士郎は、鉦泉旅館で『人生劇場』の後半を執筆した。大森寺には、森ヶ崎鉦泉の発見を伝える碑が立っている。

⑧森ヶ崎海水浴場跡

昭和5～6年ごろから昭和12年（1937）までの間に、森ヶ崎海水浴場が開設された。現在の森ヶ崎水再生センターの北側の堤防には、約250人が休憩できるよしず張りの<sup>さじき</sup>棧敷があった。地元の出店や貸しボートなどもあった。大森在住で日本古式泳法水府流荒谷派の二代目・荒谷三郎氏が、水泳教室を開き、泳法の普及に努めていた。



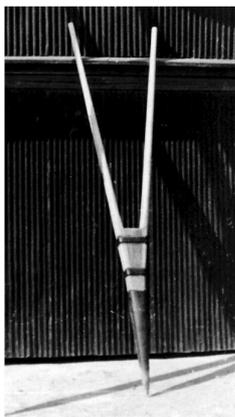
『水府流水術荒谷派秘伝書』より  
荒谷三郎氏所蔵

展示室から  
ピックアップ

ふ ぼう  
振り棒

常設展示室に展示している海苔の資料の中から、一点を取り上げて紹介するコーナーです。

初回は「振り棒」をピックアップします。



**何に使うもの？** 海苔養殖は、江戸時代中期、浅瀬にヒビと呼ぶ粗朶木（のちには竹）を建て、それに海苔の胞子を付けて生長させ、収穫することで始まりました。このヒビを海中に建てるための穴を開ける道具が振り棒です。本体は樫の木でできていて、先端は鉄で巻いてあり、鉄のタガで締めています。

江戸時代後期の農学書の『公益国産考』（天保13年発行）は、江戸時代の文献の中では最も詳しく海苔生産の方法が記述されています。その中に、粗朶と振り棒の図が描かれています。（右の図）

**使い方** 二股になっている持ち手を両手で握り、海底を突きます。棒を前後左右に揺すりながら穴を掘り、股に足をかけて踏み込みます。これを何度か繰り返して、穴が空いたら振り棒を抜いて素早くヒビ差し込んで建てました。



上の写真は、10月29日に大森ふるさとの浜辺公園で職員とボランティアがヒビ建てをした時のものです。本来は一人で行いますが、難しい作業です。

既にこの振り棒を修理できる職人がいないため、実物を応急処置しながら使っています。体験用に使用できる振り棒をお持ちの方がいらしたら、ぜひ、ご提供お願いします。

（五十嵐）



『公益国産考』  
天保13年刊

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」76号

令和2年11月1日発行  
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区  
平和の森公園2番2号  
TEL 03-5471-0333  
FAX 03-5471-0347

海苔のふるさと会  
会員募集中!!

当館の活動を支援して下さる会員を募集中。会員には年6回、このニュースをお届けします。詳細は電話またはホームページにて。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース77号



## 新年のご挨拶

海苔のふるさと会

理事 長  
中村 博



明けましておめでとうございます。会員の皆様には、館の発展のためご尽力いただきありがとうございますこと、心から感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。新型コロナウイルス感染症に罹患された方々、並びにご家族やご関係者様には心よりお見舞い申し上げます。また、医療従事者をはじめ、最前線で人々の命と生活を守るためご尽力頂いている皆様に深謝申し上げます。

海苔のふるさと館は、昨年2月後半からイベントを中止し、3月から5月末まで閉館の措置を取りました。再開後は、触れる展示や休憩スペースなど一部の閉鎖、マスク着用や消毒のお願いなどの対策を講じています。催し物は、定員を削減して接触を減らし、道具も使用前後に消毒をするなど対策しています。利用者の方々にはご不便をおかけしておりますが、ご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

まだ新型コロナウイルス収束の見通しが立ちませんが、皆で知恵を出し合って、安心してふるさと館を楽しんでいただけるように努めてまいります。

本年もどうぞよろしくお申し込み申し上げます。



## 昨年はこんなニュースがありました!



### 3~5月 臨時休館…

2月20日から催し物を中止し、3月2日から5月31日まで臨時休館しました。

臨時休館中は、展示資料と展示室の清掃、バックヤードの道具の片づけ、収蔵庫の片づけ、資料のくん蒸などを行っていました。また、FacebookやTwitterやYouTubeを使ったオンラインでの情報発信に力を入れ、5月からはWEB上で博物館を楽しめる「おうちミュージアム」も始めました。

### 6月~ 再開館!

6月1日から再開館しました。触れる展示、ライブラリー、3階の休憩コーナーなどは閉鎖し、来館者へのマスク着用や消毒などのお願い、展示室の定期的な消毒、職員の毎日の検温や消毒など、対策を講じた上で再開となりました。

催し物は、夏休みの小学生対象のものから定員を減らして再開しました。ミニイベントは、中止または内容を変更しました。

9月からは小学校の社会科見学、11月から海苔つけ体験も始まりました。いずれも人数制限を行いながら実施しています。

### そのほかに

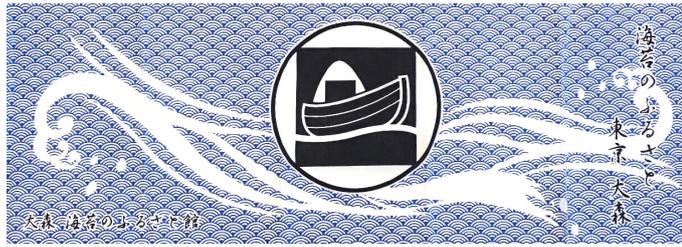
7月の猛暑の最中、事務室の冷房が故障。汗だくの1週間を過ごしました。

8月、屋外の木製ベンチを修理しました。長らく品切れとなっていた焼海苔の販売を再開しました。

9月と10月、大森の元船大工の資料と大森の元老舗問屋の資料がまとまった数で寄贈されました。

新型コロナ流行以降、公園の利用者が急増しました。お互いに気を配りながらご利用をお願いします。

# オリジナルグッズの紹介



**缶入り焼海苔**  
八切り  
全形11.5枚分  
1,080円(税込み)

長らく品切れとなっていた、大森本場乾海苔問屋協同組合のオリジナル商品の焼海苔販売が再開しました。八切りで全形11.5枚分の海苔が缶にぎっしり入っています。生産地は仕入れによって異なります(12月現在は有明海産)。

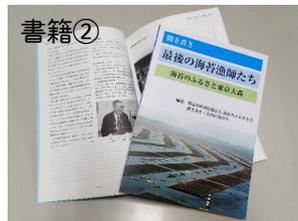
海苔の浮世絵と大森の海苔の説明が書かれていて、見学の記念やお土産におすすめです。

## 新発売 オリジナル手拭い 1,000円(税込み)

当館のシンボルマークが付いたオリジナル手拭いを作成しました。シンボルマークは、舟とおにぎりがモチーフになっています。

海苔の仕事では、冬は寒さを夏は暑さを防ぐために顔に手拭いを巻きました。海苔つけ体験にも使えます。

好評発売中



などなど...

# 祝 海苔養殖業発祥の地 記念碑

令和2(2020)年3月31日、「海苔のふるさと大森」をアピールする記念碑が、JR大森駅東口駅前広場に設置されました。

この碑は大森本場乾海苔問屋協同組合が企画・制作し、大田区に寄贈、設置されました。製作費は寄付によって賄われ、海苔のふるさと会の会員の方々からも多くの寄付が寄せられました。



問屋組合の古市理事長。式典は中止になり、除幕のみ行われた。

かつて冬の「大森のあちらこちらで見られた「杵干し」(海苔を天日で乾かすために海苔簀をかけた杵)がモチーフになったモダンなデザインは、「第54回日本サインデザイン賞 銅賞」を見事受賞しました。大森が海苔づくりの本場だったことを将来にわたって伝えていくことを願っています。

(小山)



記念碑は、JR大森駅の東口駅前広場の南側に立っています。JR大森駅からふるさと館へバスでご来館の際には、ぜひご覧ください。

### 【バスでの交通案内】

JR「大森駅」東口9番乗り場から「平和島循環」バスに乗り、「平和島五丁目」下車徒歩約3分  
\*バスの運行数が少ないのでご注意ください。

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森 海苔のふるさと館ニュース」77号

令和3年1月1日発行  
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区 平和の森公園2番2号  
TEL 03-5471-0333  
FAX 03-5471-0347

## 海苔のふるさと会 会員募集中!!

当館の活動を支援して下さる会員を募集中。会員には年6回、このニュースをお届けします。詳細は電話またはホームページにて。



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース78号

## 海苔の生育観察

# ふる浜で5年ぶりに 海苔が採れました!



大森ふるさとの浜辺公園の砂浜(以下、ふる浜)では、秋から春にかけて昔大森周辺で見られた海苔養殖の風景を再現する目的で、地元の元海苔生産者の皆様のご指導の下、竹ヒビと海苔網を設置しています。海苔網は千葉県木更津市の海苔漁師さんから種付けした網を頂き、ふる浜で海苔の生長を観察しています。海苔養殖が盛んだったころと比べて、海や周囲の環境が大きく変わったためになかなか海苔の生長が見られませんでした。今年、5年ぶりに海苔を収穫できるほどの長さに生長しました! 収穫した海苔で海苔つけをし、完成した乾海苔を当館入口にて展示しています。

### 1. 海苔網張り(令和2年12月17日)

海苔網に付いている海苔はまだ小さく弱いため、網を6枚重ねにしたまま、水から干上がらない高さに張り出しました。船から網を降ろしながら、順番に支柱の手縄と結んでいきました。



### 2. 防鳥ネット・防魚ネット張り(令和2年12月18日)

網を頂いた木更津の海苔漁師の方から「今の生産地でクロダイに海苔が食べられる被害が多くでいるため、対策をした方が良い」とアドバイスを受け、例年防鳥ネットのみ張っていましたが、防魚ネットも追加しました。ふる浜周辺にいるカモの仲間やクロダイなどが網に近づけないように、海苔網の上下をネットで挟み込むように設置しました。

### 3. 干出(令和2年12月26日、令和3年1月4日、1月18日、1月30日)

海苔が強く丈夫に育つように、干出という作業を行いました。海中にある網をあえて空気中に出して、

太陽光や風に当てます。こうすることで海苔自体が丈夫になり、他の海藻類が生えてこないようになります。海苔の状態を見て、複数回干出をしました。



### 4. 海苔採り

(令和3年1月15日、1月31日、2月13日)

網張りのころ、1mmほどの長さしかなかった海苔は1月14日に5cmほどに生長しました。そこで1月15日に第1回目の海苔採りをしました。この時に採った海苔は乾海苔2枚分。少しですが、これが5年ぶりの収穫となりました。そしてその後も海苔は生長し、1月31日に約1kg、2月13日に約4.5kgも採れました! ざっと150枚ほどの乾海苔を作れる量になりました。



生長し、1月31日に約1kg、2月13日に約4.5kgも採れました! ざっと150枚ほどの乾海苔を作れる量になりました。

今回このような好結果になったのは、防鳥・防魚ネットの効果や晴れの日が続いたこと等が要因として考えられます。また、元海苔生産者の皆様のご支援ご協力があってこそこのことです。この場を借りて感謝申し上げます。そして、来シーズンも海苔が採れていた大森の昔ながらの風景を再現できるように、取り組んでいきます。皆様、応援のほどお願い申し上げます！



(滝本)

浜の竹ヒビと、竹ヒビについた海苔



タルいっぱい海苔が採れました

海苔の重さで垂れ下がる網

天日干して海苔が完成

海苔づくりのためには、他にもいくつかの作業があります。ここからは、冬以外に行う作業についてご紹介します。

●ヒビこさえ (令和2年9月26日)

竹ヒビを使つての養殖は、海苔網での養殖が普及する以前の昭和10年代まで行われていました。ふるさと館では毎年昔ながらの方法で再現しています。一定の長さに切り揃えた竹に、針金と「ねじりん棒」という道具を使つて枝をつけ足します。枝を増やすことで海苔が付く場所を増やすことができます。根元は「ヒビなた」という道具で削つて尖らせ、引っこ抜けないようにアゴと呼ばれる返しをつけます。



●場割り (令和2年9月29日)

昔は海苔養殖の場所を分ける目印を建てることを「場割り」と呼びました。ふる浜では、どのあたりに竹ヒビと海苔網の支柱を建てるかの目印にする支柱を建て、網を張る高さの基準になる「八段線」を手縄でつけています。

●ヒビ建て・支柱建て (令和2年10月29日)

「そこり」と呼ばれる、最も潮が引く時間帯に海で作業をしました。竹ヒビは「振り棒」という道具で海底に穴を開け、「振り棒」を引き抜きながら開いた穴をめがけて竹ヒビを差し込むようにして建て

ていきます。支柱は、現代では水圧ポンプを使用して建てるのですが、今回は竹ヒビと同様に振り棒を使用して建てました。



上記の作業を経て、海苔が育つ季節の冬を迎えます。そして春になり海苔のシーズンが終わると、漁場を片付ける作業を行います。

●ヒビ抜き (令和3年4月下旬)

「三本爪」や「横万力」といった道具を使って海に建てていた竹ヒビを抜いたり、支柱についたフジツボ(昔は「セッコロ」と呼ばれていました)や汚れを落としたりします。



ふる浜では4月の終わりごろに行う予定で、浜辺から見学することもできます。

(滝本)



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館ニュース」78号

令和3年3月1日発行  
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区

平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347

海苔のふるさと会  
会員募集中!!

当館の活動を支援して下さる会員を募集中。会員には年6回、このニュースをお届けします。詳細は電話またはホームページにて。